

## 追悼文 名誉会員 故石川榮世博士



日本毒性病理学会の名誉会員、石川榮世先生は平成30年6月22日にご逝去(享年97歳)されました。2日前まで見舞いの方と話されており、老衰で安らかに息をひきとられたとうかがっております。先生のご冥福を心からお祈りします。

先生は10年ほど前から学会にお顔をお見せにならなくなっており、若い会員の方々は存じあげないと思いますが、本学会の発起人として当時、北里大学医学部病理学教授の故西山保一先生、名古屋市立大学医学部病理学教授の故伊東信行先生、東京大学医科学研究所獣医病理学教授の故藤原公策先生、鳥取大学農学部獣医病理学教授(後に北海道大学農学部の獣医病理学教授)の板倉智敏先生、国立衛生試験所病理部部長の故林祐造先生、横浜市立医科大学病理学教授の故蟹澤成好先生と筆者(財団法人、食品農医薬品安全性評価センター病理部)らと共にその創始期の幹部として活躍されました。

石川先生の生い立ちなどについては筆者も余り存知あげませんが、戦前に米国カリフォルニア州で臨床医家のご長男として育ち、戦争の始まる前にご一家で日本に帰国されたと伺っています。東京の慈恵会医科大学を卒業されて同大学の病理学教室に入られ、助教授、教授を歴任されました。また、その後も同大学名誉教授や聖マリアンナ医科大学客員教授として学会誌の英文チェックを担当されるなど、永年の貢献をされました。

先生は流暢な英語を話されて戦後の日本の医学界における国際的な交流を果され、特に様々な英文・学術雑誌の編集員として、本学会のみでなく日本病理学会、日本癌学会、日本トキシコロジー学会、日本腎臓病学会などで学会誌の国際化に貴重な貢献と足跡を残された方でした。本学会誌の初期に長年にわたって英文のチェックを担当されたのみでなく、内容に問題のある場合などには私共にも必ず相談され学会誌論文の質的向上に務めて下さいました。

慈恵医科大学の病理学講座を担当された時期には医学部の関連病院の病理部のみでなく、東京の監察医務院でも往時は責任者として貢献されました。また医学、医療の領域で多くの優秀なお弟子さんを育てておられますが、特に腎臓病理に精力的に取り組まれ、日本病理学会の宿題報告をしておられます。実験医学の領域では、(財)実験動物中央研究所・病理部で活躍された田中寿子先生や渡辺満利先生方もその薫陶を得られ、それぞれ、本学会やトキシコロジー学会で実験動物の病理、特に腎臓病理学の教育や研究に寄与しておられます。

石川先生は温厚なお人柄で、後輩の私共に常に気さくに接して下さいましたが、学会などで政治的に動かれることを嫌われ、また、他人の批評を全くされないことが強い印象として残っています。飲酒、喫煙を好まれ、大学が東京の新橋にあることも手伝って銀座には最近まで足を運ばれていたと、葬儀の挨拶でご子息が話しておられました。

終わりに医学・獣医学の病理学領域の大先輩として私共に多くのご指導や学会の発展に寄与していただいた先生に深く御礼申し上げます。

2018年7月

名誉会員 榎本 眞